



ユーモアの快楽は感情の
経費節減から生じる。
フロイト

概念と実在する対象の不一致の
知覚が笑いをもたらす。
ショーペンハウアー



笑いと、ピンとはりつめた
期待が突如無に変わることから
生じる情動である。
カント



大阪市立大学大学院
文学研究科プロジェクト

笑いが人間社会に 存在する理由



機械的のわばりが滑稽なるものであり、
笑いはそれに対する懲罰なのである。
ヘルクソン

笑いと、誰かに対する優越感から
生じる「突然の栄光」のことである。
ホップズ



日時： **2月4日(土)**
13:00~17:30 (12:30 開場)

場所：大阪市立大学 杉本キャンパス
学術情報総合センター 1F 文化交流室

窓口：sakon@lit.osaka-cu.ac.jp (佐金)

* 入場無料、当日参加可能、定員80名程度。

講演者：

片岡 宏仁	講師	(言語学)
高梨 友宏	教授	(哲学)
仲原 孝	教授	(哲学)
佐伯 大輔	准教授	(心理学)
山 祐嗣	教授	(心理学)

演目へプログラム

一、オープニング

二、片岡宏仁 講師

特別講演「それは仕様です」

三、高梨友宏 教授

「近世哲学者は笑いをどのよう捉えたか

——デカルトおよびカントの生理学的説明と

そのコンテキストについて」

四、仲原孝 教授

「ニーチェにおける生の肯定としての笑い」

五、佐伯大輔 准教授

「ユーモア刺激の価値測定

——共有集団の種類と共有人数の効果」

六、山祐嗣 教授

「適応としての笑い・あざけり

——順位制への順守と反逆」

七、ディスプレイッション

*十二時半開場、十三時開始、十七時半終了

大阪市立大学大学院 文学研究科プロジェクト
——笑いが人間社会に存在する理由——

古代ギリシャの哲学者アリストテレスはかつて、

「人間とはボリス的動物である」と述べました。

しかし彼はこの言葉に代えて、

「人間とは笑う動物である」

と定義することもできたでしょう。

事実、笑いは人間社会をうつす鏡とゆっても

過言ではありません。

こうした問題意識のもと、本プロジェクトでは、

ユーモアに関する学際的研究を通じて

人間本性の解明を試みてきました。

今回はその集大成を皆さまにご披露いたします。



大阪市立大学学術情報総合センター 1F 文化交流室 (定員80名)
〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138